

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市水とみどりの審議会		
事務局 (担当課)		水みどり環境課 電話042-769-8242 (直通)		
開催日時		令和3年12月3日(金) 14時00分～17時00分		
開催場所		相模原市役所本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	7人(環境共生部長、水みどり環境課長、他5人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 環境共生部長あいさつ 3 委員の自己紹介 4 議題 (1) 会長、副会長の選出について (2) 第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略と審議会の概要について (3) 第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略 実績報告書(令和2年度版)(案)について 5 その他 6 閉会		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

### 1 開会

### 2 環境共生部長あいさつ

### 3 委員の自己紹介

### 4 議題

#### (1) 会長、副会長の選出について

委員の互選により、会長に田淵委員を、副会長に飯塚委員をそれぞれ選出した。

#### (2) 第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略と審議会の概要について 事務局による説明の後、質疑応答を行った。

(香川委員) これまでの計画では10年単位で計画を策定しているが、今回の計画期間が8年間になっているのはなぜか。

(事務局) 上位計画である市の総合計画の計画期間と整合を図る観点から、同一となる8年間とした。

(香川委員) 基本目標2の成果指標について、緑地面積を、現況値から1haも減らさないとの目標を設定しているが、非常に厳しいものだと感じる。橋本にリニア中央新幹線の神奈川県駅(仮称)が建設される予定であり、市として発展をするためには、緑地の部分に手を出さざるを得ないこともあるのではないかと思う。どのような考えで、この目標値を設定したのか。

(事務局) 減少する部分はあるかもしれないが、緑地の保全等に係る施策を促進することで、緑地面積の増加を図り、現状の緑地面積を維持していきたいと考えている。

(川島委員) 令和2年の改定に際し、SDGs、都市緑地法等の改正、グリーンインフラの概念を加えたとの説明があったが、具体的にどの部分に反映されているのか。

(事務局) 計画書本編P2～4に記載しているが、①SDGsについては、本計画でみどり・水・生物多様性に関する施策を示し、関係の深いゴール「6安全な水とトイレを世界中に」、「15陸の豊かさを守ろう」、「17パートナーシップで目標を達成しよう」等の達成に寄与するものである。②都市緑地法等の改正については、民間による市民緑地の整備を促す制度の創設等、都市緑地法等の改正の趣旨を踏まえた施策を推進するものである。③グリーンインフラについて

は、グリーンインフラの概念を記載したもので、どのように取り組んでいくのかについては、今後検討していく。

(川島委員) 数値目標は、今回の改定で見直し、設定したものか。

(事務局) 数値目標は見直し、今回改めて設定をした。基準年度が、平成30年度(基本目標1は令和元年度)となっており、基準年度の違いと、目標自体が変更となっている。

(川島委員) 前計画の目標値と実績値について教えてほしい。

(事務局) 次回の審議会までに提示する。

(松井委員) 計画を進めるにあたり、都市(開発)計画とみどりの保全計画がぶつかることもあるかと思う。市としてどのように進めるのかお聞きしたい。

(事務局) 大きな都市計画等を策定する際には、「環境」の所管課として意見を求められるため、そういった場で意見を提出している。また、個別の開発に関しても、必要に応じて意見し、調整を図っている。

(松井委員) 他の計画の策定の会議等において、意見する機会が設けられているということか。

(事務局) そのとおりである。

### (3) 第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略 実績報告書(令和2年度版)(案)について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

(田淵会長) 前計画では、進捗状況をA~Dに区分し、評価していたと思うが、本計画では、進捗状況に-%と記載しているのはなぜか。

(事務局) 前計画においては、年度計画に対する実績等を基に、年度ごとにS~D等に区分し、進捗状況の評価をしていた。しかし、本計画における毎年度の進捗管理では、取組内容の評価を行わずに、中間見直しや後継計画の策定時に評価を行うこととしているため、進捗状況欄には、年度計画に対して事業がどの程度進んでいるかを記載している。

(田淵会長) コロナ禍において、活動が中止となっていることは理解できるが、YouTube等を活用し、代替事業を行うことも可能かと思う。

(事務局) 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が流行し、多くの事業が中止になったが、令和3年度は、オンラインでの実施など、開催方法の多様化を図っている。なお、生物多様性ネットワークでは、例年生物多様性シンポジウムを開催しているが、令和2年度は代替事業として、普及啓発動画を作成し、令和3年3月にYouTubeで配信を開始した。配信開始が年度末となったこともあり、基本目標1の「生物多様性の認知度」については、目標達成には至らなかったが、今後、この動画の啓発を促進し、生物多様性の認知度の向上を図っ

ていく。

(秋永委員) 基本目標1の市民アンケートの結果について、令和元年度と比べ、「言葉を聞いたことがあり、意味も知っている」と答えた人の割合が僅かではあるが増えている。

(松井委員) 市民アンケートの母数が令和元年度1435人から令和2年度2352人に増えているのはなぜか。

(事務局) アンケートの取り方の違いによるものである。

(田淵会長) 認知度を向上させるために、年代別のアンケート結果があった方がターゲットを絞りやすくなるのではないか。PDCAを行うためには必要であると思う。令和2年度の目標数値は何%であったのか。

(事務局) 令和元年度の現況値は67.4%であるが、これを年間1%ずつ上げることが目標とし、令和9年度には75%にすることを目指している。

(松井委員) 「意味も知っている」と答えた人だけを比べれば、令和元年度に比べ約1%上がっているため、質の面で向上していると考えられるのも良いかもしれない。

(田淵会長) 市民アンケートにおける世代別、地域別の調査結果を記載してほしい。

(事務局) 世代別、地域別の調査結果を確認し、記載については検討する。

(松井委員) 基本目標1の推進施策である生物多様性の理解促進については、生物多様性ポータルサイトにおいて、生物多様性クイズが初級、中級、上級別に掲載されており、それを活用することで、理解促進が図られるので良いと思う。

(田淵会長) 生物多様性ポータルサイトのアクセス数はどの位あるのか。

(事務局) アクセス数について確認する。

(秋永委員) 生物多様性普及動画を見たが、生物多様性について分かりやすく説明されていて良かった。

(田淵会長) 生物多様性クイズについて、学校等でも活用してもらえると良い。動画についても、広く周知を図り、アンケートを取るなどの工夫を凝らすと良い。

(秋永委員) 「(仮称)相模原市市民の森」の整備はどのような状況か。また、資料3 16ページの211-1に「企業の森」と記載があるが、エリア分けをしているのか。

(事務局) どちらも石老山を指しており、隣接する場所である。令和元年東日本台風により被害を受け、予定地でのイベント等が開催できない状況になっている。当該事業は森林政策課が担当しているため、現在の状況を確認する。

(秋永委員) 32ページ311-2「公共下水道や高度処理型浄化槽の設置」について、年度計画では高度処理型浄化槽の設置基数200となっているが、事

業実績では80となっている。200基の根拠は。

(事務局) 予算上の数値である。当初200基の設置を予定していたが、市民からの設置申請が80基に留まったと聞いている。

(田淵会長) 市から補助金を出しているのか。

(事務局) 担当課に確認する。

(田淵会長) 15ページの132-1のアライグマの捕獲について、檻を145件設置し、その檻で139頭捕獲したということか。

(事務局) 檻の設置は、市民からの依頼により檻を設置する場合と、農家が自己の檻を畑に設置する場合等がある。設置件数145件は、市民の依頼により市が設置した檻の数であるが、捕獲頭数139頭には、農家が自己の檻等により捕獲した個体が含まれる。

(田淵会長) 本審議会において、アライグマについては、行動調査等を行い、駆除すべき頭数を把握し、そのうち何頭捕獲できたかで捕獲率を出すべきとの意見があったと記憶しているが、この進捗率100%はどのように算出したものか。

(事務局) 進捗率100%は、捕獲率ではなく、市民からの依頼に対してすべて対応できたということである。

(田淵会長) 市が設置した檻での捕獲頭数であるという誤解が生じる可能性があるので補足をした方が良い。

(事務局) 補足説明を記載する。

(松井委員) 15ページ132-2オオキンケイギクの生育状況の把握について、オオキンケイギクの生息域は広がっているのか、抑え込めているのか。

(事務局) 令和2年度から、市民からの通報を受け職員が駆除を行っているが、現状では広がっていると考えられる。しかし、令和2年度に、道路部局との連携や造園業者への勉強会を実施し、令和3年度は前年度に比べ3倍の量の駆除を行ったことから、来年度は抑え込めているのではないかと考えている。

(川島委員) 5ページ基本目標2の成果指標は、「緑地面積」を保持することであるが、その中身が問題であると感じる。3月に農林水産省が有機農地を2050年度までに全体の25%に引き上げるという目標を掲げた。相模原市でも農地が耕作放棄地も含め、緑地に含まれているのではないかと。有機農業は生物多様性を実現させることができる取り組みだと思ふ。有機農業は今後力を入れていくべき分野であり、市として他市町村に先駆けて取り組む必要があるのではないかと感じている。

(事務局) 質の問題は非常に大事なことで、貴重なご意見である。数値を追いかけるだけでなく、質を高めることを意識し、農政課が所管する農業振興ビジョンにおける有機農法に関する目標数値の設定の必要性や、本計画においてもそ

のような考え方を取り込んでいく必要があると考える。

(飯塚副会長) 27ページ252-2、28ページの254-1に「明許繰越」という言葉が記載されているが、一般的ではない。

(事務局) 分かりやすい言葉に修正する。

(飯塚副会長) 37ページ331-1相模川ふれあい科学館管理運営について、進捗状況が80%となっているが、実績を見ると100%で良いと感じる。

(事務局) 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館があったためである。

(田淵会長) 開館している期間は、100%と言える実績であれば、文言の工夫をした方が良い。

(飯塚副会長) 41ページ412-1自然体験交流事業・上下流域自治体間交流事業は、新型コロナウイルスの影響により多くの事業が中止となったと記載されているが、進捗状況が100%となっている。その根拠を示すべきである。

(事務局) 所管課に確認する。

(田淵会長) 進捗状況については、全体の整合性を図った方が良い。

(松井委員) 43ページ423-3市民大学については、令和2年度に講師として依頼を受け、準備を進めていたものの、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまった。令和3年度の状況が分からず連絡がないが、オンラインなどでも開催できるかと思うので検討してほしい。

(事務局) 所管課に確認する。

(川島委員) 実施事業について、計画期間の途中で追加や変更は可能なのか。

(事務局) 予算が伴うものは時間を要すが、追加や変更は可能である。

(秋永委員) クリハラリスの目撃情報があったので、今後注意していただきたい。

(事務局) 捕獲は難しいと聞いているが、県と協力して対応していきたい。

(事務局) 今回の審議会においていただいた意見を反映したものを、次回の審議会で報告する予定である。

## 5 その他

事務局から、東林ふれあいの森の面積の変更についての報告を行ったほか、次回の会議日程等について説明した。

以上

## 水とみどりの審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田淵 俊人	玉川大学農学部 教授	会長	出席
2	松井 久実	麻布大学獣医学部 講師		出席
3	吉永 龍起	北里大学海洋生命科学部 准教授		欠席
4	川島 尚	公募委員		出席
5	秋永 眞里子	特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会 理事		出席
6	飯塚 裕美	特定非営利活動法人みどりのお医者さん	副会長	出席
7	香川 健	相模原商工会議所 3号議員 (東京ガス株式会社神奈川西支店 支店長)		出席
8	香田 隆芳	「小松・城北」里山をまもる会 副会長		出席
9	平野 和夫	特定非営利活動法人相模原こもれび 理事長		欠席